

建設環境委員会資料

1 報告事項

- | | | |
|--|-----|---|
| (1) 美術館長の退任及び新館長予定者の選任について | ・・・ | 1 |
| (2) 「島根県立美術館・北斎プロジェクト」について | ・・・ | 2 |
| (3) 2030島根かみあり国スポに向けた競技力向上
のための指導者確保・養成について | ・・・ | 3 |

令和4年4月13日
環境生活部

美術館長の退任及び新館長予定者の選任について

島根県立美術館の長谷川三郎館長には、館長就任以来、様々な展覧会の開催や館の円滑な運営にご尽力いただきましたが、在任期間がすでに10年以上経過していることから、本年6月の美術館再開館を節目として、令和4年6月30日付けをもって退任されることになりました。

新館長には、藤間寛氏が就任予定です。

【現館長】

はせがわ さぶろう
長谷川 三郎 氏 鳥取県東伯郡三朝町出身 昭和17年生（79歳）
平成23年4月に美術館長就任 在任期間11年

【館長予定者】

とうま ひろし
藤間 寛 氏 島根県出雲市大社町出身 昭和28年生（68歳）

■略 歴

学 歴	青山学院大学文学部教育学科卒
昭和63年	島根県採用(10月)
平成10年	島根県立美術館 学芸課長
17年	島根県立石見美術館 主査、調整監（平成18年）
19年	島根県立美術館 調整監
23年	島根県立美術館 学芸統括監
25年	島根県立美術館 副館長（平成26年3月定年退職）
26年	島根県立美術館 学芸専門官 [非常勤]（～平成30年）
26年	松江歴史館 学芸専門監 [非常勤]（～令和4年3月末）

■選任理由

- ・長く島根県学芸員としてのキャリアを積み、県内の美術関係の状況や地域事情に通じており、全国の美術関係者からの認知度も高いこと
- ・美術館の初代学芸課長として館の基礎づくりに携わり、また、副館長として館長の補佐や県学芸員の統括を担うなど、館運営を支えてきた実績があること
- ・開館から十余年にわたり専門的実務を主導した経験と見識から、美術館の施設やコレクションの魅力を最大限活かした館運営が期待できること

■就任予定日 令和4年7月1日

「島根県立美術館・北斎プロジェクト」について

1. 目的

県立美術館が所蔵する世界有数の葛飾北斎コレクションを大切に守り伝え、多くの方に作品との出会いや感動体験を提供し、地域の方々に親しみと誇りをもっていただける美術館を目指し、「島根県立美術館・北斎プロジェクト」を展開する。

2. 「北斎コレクション」の概要

- (1) コレクション数 2, 504点 (門人作品・関連資料含む)
 永田コレクション：2, 398点 ⇒ 津和野出身の北斎研究者永田生慈氏からの寄贈
 新庄コレクション：56点 ⇒ 松江出身の実業家新庄二郎氏からの譲渡
 島根県購入：50点
- (2) 特徴
- ①北斎を代表する名品を所蔵
 - ②現存唯一の作品・資料を所蔵
 - ③北斎の画家人生を通覧できるコレクション
 - ④“県外不出”の永田コレクション

3. 事業の概要

令和11年度の開館30周年に向け、4つの柱に基づいた事業を展開する。

■主な事業内容：

4つの柱	主な事業内容
作品とその価値を【守る】	<ul style="list-style-type: none"> ○適正な保存環境の維持 (湿温度管理、資材交換など) ○作品の修復 ○高精細画像の撮影、データベースの整備 ○「永田生慈 北斎コレクション総目録」の作成
魅力や価値を【伝える】	<ul style="list-style-type: none"> ○特設サイト「島根県立美術館の浮世絵コレクション」の充実 ○こども向けガイド誌の作成・配布 ○講演会の実施 (館内・外) ○紹介動画、記事の作成・発信
本物と出会う【感動】を	<ul style="list-style-type: none"> ○常設展示「北斎展示室」でのコレクション展示 <ul style="list-style-type: none"> ・北斎作品を常時公開 (約30点、1ヶ月毎に展示替え) ○企画展「永田コレクションの全貌公開」(全5回) 予定 <ul style="list-style-type: none"> ・2022年度〈一章〉北斎―「春朗期」「宗理期」編 (R5.2.3～3.26) ・2024年度〈二章〉北斎―「葛飾北斎期」「戴斗期」編 ・2026年度〈三章〉北斎―「為一期」「画狂老人卍期」編 ・2027年度〈四章〉北斎と門人たち ・2029年度「開館30周年記念 北斎―永田コレクションの全貌公開〈終章〉」 ○小学校等との連携プログラムの実施 (招待、制作体験など)
楽しむ体験から【親しみ】へ	<ul style="list-style-type: none"> ○北斎コレクション出張ワークショップの実施 ○ARフォトスポットの開設 ○オリジナル北斎グッズの制作・販売

2030 島根かみあり国スポに向けた競技力向上のための 指導者確保・養成について

2030 年の第 84 回国民スポーツ大会に向けては、天皇杯（男女総合優勝）、皇后杯（女子総合優勝）獲得を目標に掲げ、令和 3 年 2 月に「島根県競技力向上基本計画」を策定し、取組を展開している。このうち、「指導者の養成・資質の向上」について、令和 4 年度は、以下の取組を行う。

1. 研修会、資格取得の支援

県外の優秀な指導者を講師として招き、競技団体が開催する指導者研修会の経費を支援する。また、国民スポーツ大会で必要となる指導者、審判員の資格取得を支援する。

2. 民間企業等での指導者の受入れ

トップアスリートコーディネーターを配置し、空手やボルダリングなど、指導者が少なく、地域を中心に活動が行われる競技について、選手強化のための指導者や選手の受入先となる企業等を開拓し、マッチングを行う。

3. 指導者となる教員の確保

学校部活動が強化の中心となる競技について、競技や指導の実績を考慮した教員採用選考の実施を県教育委員会に依頼。

4. 中学校、高等学校における地域の指導者の確保、養成

中学校、高等学校の運動部活動において、指導力の高い部活動指導員や地域指導者を活用して競技力向上を図り、また、経験の少ない指導者に、優秀な指導者の下で指導経験を積ませ、指導力の向上を図ることを市町村教育委員会及び県教育委員会に依頼。